**いとうせいこう×奥泉 光**

**＜文芸漫談シーズン７＞**

**夏目漱石『彼岸過迄』**

この企画は、いとうせいこうと奥泉光が、小説の面白さを、笑いを取りながら伝えたいと、漫談形式で始めた文学ライブです。

芥川賞作家と稀代の仕掛人が捨て身でおくる、漫談スタイルの超ブンガク実践講座。

*小説の書き方・読み方がクスクスわかる？かも！*



2006年5月から年3回のシリーズで始まったこの会は、お客様に支えられながら今回で58回目となりました。会場は渋谷のユーロライブです。

内容、構成はいたってシンプルで、作家・クリエーターとして活躍する“いとうせいこう”と、芥川賞作家の“奥泉光”が、名作と言われる文学作品に笑いを取り入れながら紐解いて行く漫談形式のトークショー（文芸漫談）です。

同類のトークショーのように、作品への理解を与えることにこそ違いはないのですが、そこに、博学がユーモアをまとったような二人の『笑い』が入ることにより、お客さまの興味をより深いところまで誘い、“豊かな文学”になるのでは、との試みです。

今回のお題は夏目漱石の「彼岸過迄」。

誠実だが行動力のない内向的性格の須永と、純粋な感情を持ち恐れるところなく行動する彼の従妹の千代子。愛しながらも彼女を恐れている須永と、彼の煮えきらなさにいらだち、時には嘲笑しながらも心の底では惹かれている千代子との恋愛問題を主軸に、自意識をもてあます内向的な近代知識人の苦悩を描く。
今回も、何だそれなら知っているよ！と、言われる方も、二人の手にかかると、なんと、こんな読み方もあったのかと納得いただけるものと思いますよ！

出演■**いとうせいこう／奥泉 光**

日時■**2025年11月22日（土）19：00開場／19：30開演**

料金■全席指定席　予約・当日共　☆3,000円

会場■ユーロライブ（☎ 03-6675-5681）渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F

　　　　　　渋谷駅下車、Bunkamura前交差点左折　ユーロスペース内

ﾁｹｯﾄ問合せ■Ｋ・企画　（TEL＆FAX 03-3419-6318）

　　　　　　　https://www.k-kikaku1996.com/

　　　　　■イープラス　< https://eplus.jp/>

　　　　　■チケットぴあ　Pコード：657653　< https://t.pia.jp/>

■カルテット予約フォーム

　　　　　　　https://www.quartet-online.net/ticket/bunman-58

主催■舞台よろず相談所 Ｋ・企画

**「彼岸過迄」梗概**

大学を卒業したものの、就職できずに日々を送る青年・田川敬太郎。

彼は、同じ下宿に住む森本と自身の将来について語り合い、焦燥感を募らせていく。

そんな中、敬太郎は大学時代の友人・須永の叔父である田口に就職を頼むことを決意する。須永の家を訪れた敬太郎は、そこで須永の従妹である千代子と出会う。

千代子の天真爛漫な性格に惹かれながらも、敬太郎は自身の内向的な性格ゆえに恋愛に踏み出せない。

一方、須永は千代子に恋心を抱いていたが、自身の出自や性格にコンプレックスを抱えており、千代子にアプローチすることができない。

敬太郎と千代子の関係が深まっていくのを見て、須永は嫉妬と焦燥に駆られる。

敬太郎、須永、千代子の3人の関係は複雑に絡み合い、それぞれの葛藤が描かれていく。

やがて、千代子は敬太郎に想いを寄せることを決意するが、敬太郎は自身の弱さや優柔不断さから千代子の気持ちを拒絶してしまう。

一方、須永は千代子への想いを断ち切ることができず、苦悩する。

そんな須永の姿を見た千代子は、彼の真摯な性格に惹かれ始める。

それぞれの想いが交錯する中で、物語は思わぬ結末を迎える・・・・・。

現代の「愛の不毛」はこの作品からはじまった――。

漱石の男女観を見事に結実させた恋愛小説。

自らを投影して人間の「内面」を捉えた、後期三部作の幕開け。

**夏目漱石　＜1867年～1916年＞**

本名、夏目金之助。

1867（慶応3）年、江戸牛込馬場下（現在の新宿区喜久井町）に生れる。

帝国大学英文科卒。 松山中学、五高等で英語を教え、英国に留学した。

留学中は極度の神経症に悩まされたという。 帰国後、一高、東大で教鞭をとる。

1905（明治38）年、『吾輩は猫である』を発表し大評判となる。

翌年には『坊っちゃん』『草枕』など次々と話題作を発表。

1907年、東大を辞し、新聞社に入社して創作に専念。

『三四郎』『それから』『行人』『こころ』等、日本文学史に輝く数々の傑作を著した。

最後の大作『明暗』執筆中に胃潰瘍が悪化し永眠。享年50才。

**出演者紹介**

**【いとうせいこう】**

1961年、東京生まれ。早稲田大学法学部卒業。作家、クリエーター。

『ノーライフキング』で小説家としてデビュー。最新小説に『小説禁止令に賛同する』。主な作品に『想像ラジオ』『存在しない小説』『鼻に挟み撃ち他三編』。

ノンフィクション･対談集に『国境なき医師団を見に行く』『ラブという薬』『今夜、笑いの数を数えましょう』「ど忘れ書道」「ガザ、西岸地区、アンマン」「福島モノローグ」「われらの牧野富太郎！」『今すぐ知りたい日本の電力』『ラジオご歓談！爆笑傑作選』『東北モノローグ』『能十番』などがある。

盟友・みうらじゅん氏との共作「見仏記」シリーズでは新たな仏像の鑑賞を発信するなど、常に先の感覚を走り創作し続けるクリエーターである。

その他、舞台・音楽・テレビなどで活躍中。

公式HP＝http://www.cubeinc.co.jp/ito/

**【奥泉 光】**

1956年、山形生まれ。国際基督教大学大学院修了。小説家･近畿大学教授。

『石の来歴』で芥川賞、『東京自叙伝』で谷崎賞、『雪の階』では柴田錬三郎賞を受賞、『虚史のリズム』で毎日芸術賞を受賞、『清心館小伝』で川端康成文学賞を受賞。

他の主な小説に『虫樹音楽集』『シューマンの指』『神器　軍艦「橿原」殺人事件』『グランド･ミステリー』など。

いとうせいこうとの共著に『文学の聖典』『世界文学は面白い｡』などがある。

公式HP＝http://www.okuizumi.com/